

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071100309		
法人名	株式会社トミタ		
事業所名	グループホームなかよし倶楽部		
所在地	群馬県富岡市七日市676-4		
自己評価作成日	平成26年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成26年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は富岡市の中心部、上信電鉄西富岡駅より徒歩1分・公立七日市病院へも徒歩圏内の閑静な住宅地にある。季節に応じた花見や紅葉狩りその他市内で見せたい光景がある時にはドライブするなどの支援を行っている。また、個別のニーズに合わせて買い物や外食などを行う機会を積極的に設けるようにしている。入居者個々の望む生活に合わせられるよう工夫して対応している。ご自宅が近い入居者は毎日夕食を召し上がった後、ご自宅へ戻り家族団らんの時間を作っていたりできるよう支援している、離臥床を2人介助しているのでご家族様にも協力していただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の事業所における日頃の状況を、フェイスブックに載せて家族と事業所の相互理解を図る有効手段としている。写真の掲載については承諾の取れている方のみ顔写真を載せている。定期的なかかりつけ医の受診や、緊急時の受診については、家族のみ・家族と職員・職員のみ3つの付き添いのパターンを作り、柔軟に受診対応を行っている。また、外出支援については、利用者個々の希望に添って対応し、日常的な散歩は勿論のこと、買い物や回転ずし等の外食、美容院などへの送迎に職員が付き添い対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で理念を作成し、毎朝の申し送りやミーティング等で取り組む姿勢を確認し合っている。 理念は事務所に掲示して会議の時などに確認し合っている。	理念を、玄関及び事務室に掲示している。毎日の申し送りやミーティングで確認し、職員同士で共有を図り実践につないでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や活動に積極的に参加し、地域の一員として認知していただけるようにしている。近隣への散歩の時には挨拶や会話をし親しい関係作りができるようにしている。地域の祭りや道路清掃などにも参加している。	日常的な散歩時に、近隣の方たちと挨拶を交わす他、散歩で駅の構内を通り抜ける時には、電車を待つ人との会話をすることもあ る。積雪時には地域の方々が除雪をして下さるなど、近隣住民との関係も良好で、常に地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まりには積極的に出席するようにしている。また住み慣れた地域で暮らすことの大切さを理解していただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は2か月に1度の開催を行っているが、構成員から内容をもっと考えて開催をするようにと言うご意見をいただいている。今後は内容の充実を図るよう検討している。	今年度は努力の成果が見られ、地域の役員などの参加を得ることが出来た。2ヶ月に1回の会議では、意見や要望が出され内容の充実が見られる。薬剤師を講師に招き、家族や職員の大勢の参加の下、勉強会を開催している。今後も引き続き行い、更なる充実を図りたい意向である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所で判断できないことや分からないことなどは、市町村の担当者に相談している。運営推進会議への参加も含め協力していただいている。	運営推進会議で、情報交換が図られている。また、地域ケア会議に参加したり、判断し兼ねる事例があれば、市に出向いて相談したりするなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関が交通量の多い道路に面しているため、玄関の施錠はしているが基本的に外出の禁止はしていない。職員が付き添い危険の無いよう見守りの上外出をしていただいている。介護における身体拘束は行わない方針としている。	日頃より拘束についての学習会を行い、拘束についての理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。施錠については、事業所玄関前が道幅も狭く交通量が多いため、やむなく施錠しているが、個々の希望に添い見守りながら出入りはいつでも可能である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議で話し合う他、時間を見つけて学ぶ機会を作り虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の活用をしている利用者はいないが、保佐人を付けているケースがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には十分な時間を設け、話し合う時間を作っている。契約の締結・解除の際にも話し合い疑問点には答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置したり、運営推進会議で要望を伺うようにしている。 ご家族面会時に話し合いの時間を作り、意見や要望を運営に反映させている。	面会時や、電話で利用者の様子を伝え、家族から意見や要望を聞いている。フェイスブックの活用により日々の様子を写真で見ることで、家族からのコメントも多く、その中で意見や要望が出されることがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人代表者や管理者は職員と話し合う時間を設け、要望や意見なども気軽に話せるようにしている。また提案などは運営に反映できるようにしている。	ケア会議や日々のケアの中でも、意見や要望が出しやすい環境にある。本社管理者は、毎日各施設を巡回し、そうした意見などを持ち帰り検討している。出来ることから速やかに反映出来るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握しており、本人の希望に沿った形になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外研修への参加は勤務時間で行えるようにしている。また資格取得への学びの時間や講習への参加ができるように勤務調整して支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の交流の他、市や医療機関主催の勉強会などで同業者と交流する機会を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者・ご家族から聞き取りを行い、ご希望に合わせた安心して生活できる環境作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前から話す機会を設け、本人や家族のニーズや思いを詳しく伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と利用者家族が必要とする事への支援を行っている。当施設のみでの対応が困難な事例では他施設を利用できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	運営理念にあるように、互いに家族のような関係づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	適時近況報告を行い、ご希望には随時対応できるようにしている。必要であれば一緒に外出していただけるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限を設けず、自由に面会できるようにしている。友人などの面会はあまりないが、住み慣れた地域方面の外出なども時々行っている。毎日訪れる家族・自宅で憩いのひと時を過ごす方の日課が途切れないよう支援している。	近所の八百屋の方が訪ねてきたり、住み慣れた地域の小学校や貫前神社のお参りに行ったり、スーパーに買い物に出掛けたりなど、人と場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良好な関係が構築できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、相談・助言を受け付けている。再度利用の希望にも対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に思いや意向を確認している。日々の関わりの中で一人一人の言葉や表情・行動などから思いや希望を把握するよう心掛けている。介護度が1から5と多様で、意志疎通が困難な方もいるのでその人本位の支援を心がけている。	利用時に、本人・家族に思いや意向を確認し、できるだけ希望を取り入れてケアに反映させ、満足いただけるよう努力している。また、日頃の行動や会話の中から本人の意向を読み取り、無理強いしないよう本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のモニタリングで生活歴や暮らした環境などを聞き取り把握に努め、入所後も必要に応じて利用者や家族から聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態を観察・記録し現状の把握に努め、必要なケアを提供するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族とは日頃の関わりの中で思いや意見を交わしている。介護計画作成時にはサービス担当者会議の開催をし、意見を交わしたうえで介護計画の作成をしている。毎月行うケア会議やモニタリングで変化ある時には柔軟に変更できるようにしている。	家族の意向を反映させ、サービス担当者会議で話し合い、介護計画の作成をしている。介護計画はケース記録にファイルし、その日のケア担当者が常に意識をしてケアにあたり、モニタリングを行い、3ヶ月毎の見直しに繋がるようにしている。変化があれば、その都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、情報共有を行うようにしている。変化に対応した介護計画変更なども行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて通院送迎など行っている。 買い物・ドライブ・外食など個々のニーズに合わせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人には運営推進会議などの場を通して依頼し、有事の際には協力いただけるような体制が整っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される時点で様々な疾病を持っているため、それぞれの主治医により適切な治療を受けられるように支援している。緩和ケアや訪問看護と連携も取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。	入居時のかかりつけ医との関係を継続している。定期受診には、付き添いを家族のみ・家族と職員・職員のための3パターンで対応している。必要時には協力医の往診もあり、看護師については24時間連絡可能な体制がとられ、常に安心した医療体制が取られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は24時間連絡が取れる体制を築いている。利用者の状況や変化があった時には随時報告をしている。受診加療が必要な時には相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に病棟へ行き、相談員や病棟看護師などから情報を得て、様態の確認を行う。退院許可が出た場合には、速やかに戻るように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時において重度化・終末期の指針を本人及び家族に説明し同意を得ている。状態が変化した場合には随時話し合う場を設けるようにしている。看取りは主治医・訪問看護と連携しその人らしい最期が迎えられるよう支援している。	これまでに看取りの経験があり、今後も家族の希望があり、医師・家族等の協力体制が整えば支援可能であることを、契約時に説明している。看取りについては、職員も前向きに支援することを考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や転倒事故など有事に備えて連絡先一覧を作成している。看護師とは24時間連絡が取れるような体制を整えている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回実施している。その他火災通報装置の使い方や連絡方法などは会議を行う際に確認合っている。地域の方には運営推進会議などをお願いしている。	年2回の訓練では、消防署立ち会いの基、夜間を想定した訓練も行っている。災害時の避難場所については、敷地が狭く確保できていない。また、地域の協力体制も整っていない。水や食料の備蓄は、確保している。	避難場所の確保を含め、地域との相互協力体制の構築に向けた取り組みを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した声のかけ方や対応を心がけている。個人情報の取り扱いに関しては機密保持の徹底を図るように努めている。 呼称は人格を尊重した言葉を使うようスタッフ全員が心掛けている。	個々人の呼び名は、本人の希望を取り入れ「苗字」にさんを、また、「名前」にさんをつけている。それぞれの言動は否定せず、さりげなく対応することに心がけている。誇りやプライバシーを損なうことなく、やさしい言葉かけで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面で利用者を選んでいただくよう心掛けており、本人の意思を大切にしている。意思決定が困難な場面では解りやすい説明や説明やジェスチャーなどで対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の体調に配慮しながら一日をどのように過ごしていただくか考え、できるだけ希望に添えるような支援をしている。 予定を職員で確認しながらも柔軟に対応できる体制を整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望により理美容院には馴染みの店に出向くように支援している。外出できない方には理容院に訪問を依頼し、その人らしい髪型に整えていただいている。居室からホールに出て頂く時には髪をとかしていただくよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけ、テーブル拭きなどできることを探し、役割を持って共に行うようにしている。 また個々の嗜好や量を提供できるようにしている。	献立は職員が考え、食材は近くの八百屋などへ利用者と一緒に買い出しをしている。材料の皮むきをしたり、食後のテーブルを拭いたり、時にはおやつのだんごやき作りやパン作りなども職員と一緒にしている。食事は状況に応じ、同じテーブルで一緒に食べるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の好みや適切な量はそれぞれ異なるので、その方に合わせて提供するようにしている。水分なども好みに合わせ、必要な量が摂れるように提供している。主食・副菜も食べる方の状態に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず適切な口腔ケアを行っている。 なるべく自分の力のできるよう援助するようになっているが、困難な方にはスタッフがきちんと介助を行い清潔を保つようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄記録によりそれぞれの方の排泄リズムを知り、適時誘導している。オムツを使っている人でも、トイレ誘導をトイレでの排泄を促している。入浴以外の日には温タオルで清拭をし清潔を保つようにしている。	常に排泄チェック表から個々の排泄パターンを知り、トイレ誘導を行っている。夜間については、安眠を妨げないよう配慮しながら、トイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬状況を職員が共有し便秘の時には、医師の指示により薬の調節など適切に行っている。 飲水量や食事を記録し把握することで個々の状況を知り予防に役立てている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴していただくようにしている。個々の好みが異なるため、満足していただくようゆったりと時間を使うようにしている。準備も必要なので週4回の午前中を入浴日に設定しているが個々が満足していただけるような支援をしている。	入浴日を週4日午前中に設定し、2回の入浴を楽しんでいる。個々の希望で入る日を変更したり、季節の菖蒲湯や柚子湯をしたりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴以外の時間に体操やレクを行うようにしているが、昼食後には午睡をし体を休めていただくようにしている。毎日の過ごし方は其々異なるので、個々の生活スタイルに合わせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書はファイルに綴り確認、使用法・量なども申し送りなどで伝えている。受診の際薬の変更があった時には申し送りノートなどに記録しスタッフに伝えている。変化あった時には主治医やナースに報告し指示をいただき、その結果や情報ををスタッフ全体で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自室の清掃・洗濯物たたみなどを中心にできる事を依頼し行っていたいっている。誕生会や季節ごとの行事以外にも個々に合わせた楽しみを企画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩以外にも、季節の移り変わりを眺めるドライブなど楽しむ機会を作っている。外食や買い物などの希望があった時には個別に対応している。ご家族付添での外出、祭り参加への近隣の方の協力なども時々行われている。	日常的な散歩の他、回転寿司などの外食・季節ごとのお花見やお祭り、時には、アイスクリームを食べに出かけることもある。いきつけの美容院へ家族や職員と一緒に出かけたり、夕食後に、自宅へ遊びに行ったり、常に希望に添うよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人を除いて自分でお金を所持していない。ご家族から預かって事務所で管理しているお金を必要な時には使っていただけるようにしている。 買い物などの時に希望があれば、自分で払っていただくように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人からの電話は本人に取り次ぎ自由にお話をさせていただくようにしている。 電話を掛ける希望があればその都度かけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の花壇やリビングから見える空間には花や植物を植え、季節感を感じられるようにしている。共用の空間には自由に座れるソファなどを設置している。天井から暖かな光が差し込み明るい空間を作り出している。	居間兼食堂には吹き抜けの天窓があり、明るく、日差しを調節するカーテンもあり、心地よい採光がとられている。一部に畳のスペースがあり、この時期にはこたつを設置している。鉢植えの植物も良く管理され、季節を感じさせ楽しむことができる。壁面には、利用者の作品が飾られ、書や手づくりの手芸品など心の和む空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やお茶などの時間には自分の席が決まっているが、いつでも自由にソファやこたつなどで寛ぐ事ができるようにしている。 時には新聞や本を読んだり花を眺めて語らうようにリビングには花や観葉植物を飾っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には愛用のタンス・テレビ・好みの小物などを置き、居心地良い空間を作っていたできるように支援している。寝具などは適時干したり、リネンの交換をするなどして快適に休んでいただくようにしている。	愛用の筆筒や洋服スタンドが置かれ、なかには位牌やテレビなども持参して、思い思いの配置となっている。リネン類は干したり、交換することを心がけ、常に清潔に保ち居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の希望やニーズに合わせ、できるだけ安全に自立した生活を送れるように支援している。 個々の状態を職員はしっかり把握し安全の見守りを行っている。		